北里学級だよりNo.10　2019年2月12日

たんぽぽ

大村智博士

北里学級の教室には、大村智博士の写真を掲示しています。そこで大村智博士について簡単に紹介します。

大村智博士は、2015 年のノーベル医学生理学賞を受賞しました。どんな功績が評価されたのでしょうか。大村博士は、静岡県のゴルフ場周辺の土の中にいた新種の放線菌が出す物質から、寄生虫に効果がある抗生物質「エバーメクチン」を発見したのです。「エバーメクチン」から駆除薬イベルメクチンを米製薬大手と開発しました。蚊やブヨが媒介する熱帯地方特有の「オンコセルカ症」(河川盲目症)という病気がありますがこの病気の特効薬として広く普及したことが評価されたのです。

このおかげで 3 億人が救われ、オンコセルカ症は、2025 年頃には撲滅される見通しです。イベルメクチンの商品名は、アフリカの子どもたちによく知られています。

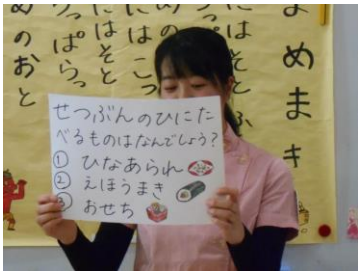
ノーベル賞の受賞会見では、「私の仕事は、微生物の力を借りているだけ」と繰り返しました。とても謙虚なひとなのですね。

大学生時代はスポーツに没頭し、距離スキーで国体に出場したこともあります。大学卒業後は、定時制高校の教師をしていましたが、ある時、生徒の指が油にまみれているのを見て一念発起。郷里の山梨大などで微生物の面白さに触れ、その後、29 歳で北里研究所に入りました。

大村博士研究室の成果をまとめた冊子は「イエローブック」と呼ばれ、世界中の研究者の参考書になっています。

力を合わせて完成だ！

北里学級には、小学部と中学部があります。年 2 回の調理実習、音楽や図工（美術）、木曜日の散歩は、合同で授業を行います。小児病棟主催の「節分の会」に登場する「鬼」も小中合同で毎年作成しています。今年もどんな鬼にするのか、大きな段ボールを目の前にして「頭はもう少し上かな」「足は太くしよう」等々話し合いました。下書きが完成するとポスターカラーを使って色を塗り、カッターを使って段ボールを切り抜き、最後に腕が動くようにハトメパンチで止めました。教室に通級できない子は、ベッドサイドで鬼の目や眉毛を貼って鬼作りに参加しました。同年齢の子ども単位の活動が中心となる学校とは違い様々な年齢の子どもたちが集まって授業や行事に取り組むことができるのが北里学級の良さ。その中で、協力し励ます心が育ちます。

鬼は外　福は内～北里学級の鬼　大活躍～

2 月 1 日に小児病棟主催の「節分の会」が行われました。保育士さんや北里大学学生奉仕団の方たちが、計画し、今年は、節分のクイズや「鬼のパンツ」の歌と踊り、そして北里学級で制作した鬼を使った豆まきが行われました。小児病棟では、本物の豆は使えません。カラーのピンポン玉が豆となりました。豆が、鬼に当たり、腕が上下に動くと子どもたちの歓声が上がりました。奉仕団の方たちのプレゼント（折り紙で作られた鬼の面）を手に、楽しいひとときを過ごしました。